

留学報告書：2022年12月

花田美月

2021年度奨学生の花田美月です。UC Berkeley 数学科の博士課程に所属しています。この報告書では2年秋学期についてご報告いたします。

今学期は代数幾何の授業とリー群を取りました。課題の量や教授のタイプなど、スタイルの違う授業だったので、忙しい時期もズレてよかったです。一年の秋学期からずっと一緒に授業を取っている同期が何人かいるのですが、来学期以降はそれぞれ専門に分かれ、一緒に授業を取る機会も減るみたいなので寂しいです。また、今学期の頭には指導教官が決まり、これから一年間どのような勉強をしていかなきゃいけないのかの方針が固まりました。それを踏まえ、他の学生との student seminarを運営したり、リーディンググループを組んだり、授業外で学ぶ機会が多かった一学期間でした。興味のあるものに片っ端から参加していた一年目とは違い、やりたいことが明確になった分、より主体性を持って過ごせた気がします。学期末には、去年からポスドクと同期の学生と行っていた研究をもとに論文も執筆したりと、やっと大学院生になったんだなど実感する機会も増えました。

また11月の半ばからUC全体で大学院生・ポスドクのストライキが行われ、日常生活が大きく変わりました。数学科はほとんどの学生がTAとして働いているのですが、ストライキ期間中はTAとしての業務は放棄し、キャンパス内でピクエティング活動を行いました。普段話す機会が少ない学科の先輩方や後輩と交流し仲良くなることができた一方で、授業がオンラインに移り、セミナーやミーティングも中止になり、オフィスにも立ち入りが禁止されている日々が続き、普段の勉強や研究に集中できる環境がいかにありがたいか痛感しました。ストライキの目的には、賃金上昇や留学生の NRST(non resident supplemental tuition: UC系列は州立大学のため、州外の学生(主に留学生)は本来の学費に加え、別費用を払わないといけない)の改善・廃止などが含まれており、同期の間でも給料やビザなどセンシティブな内容について話す機会も増えました。会話を重ねるごとに、各々が強い意志を持ってストライキに参加しているのを感じました。今月末にストライキも終わったので、また1月からいつも通りの学校生活を送れるのを楽しみにしています。

学校外の日常生活では、たまたま自分が住んでいるアパートの別の部屋に日本人留学生が引越してきてことをきっかけに、パークレー・ベイエリア内の他の船井奨学生と知り合い、秋の交流会などで対面でお会いする機会がたくさんありました。また、8月末にはカナダ・オタワへ、11月の頭にはシアトルに行きました。シアトルでは同じくFOS'21の織井さんに泊めてもらい、キャンパスや街も案内してくれました。大学院入学当初から遊びに行く！と約束したものの、私の計画性のなさから一年半ぶりの再会になってしまいました。お互いの大学院生活についての悩みや考えを共有することができ、とても充実したシアトル旅を過ごすことができました。一年目はこのような他の大学や学科の学生との交流が少なかったのですが、今後はより積極的に交流を持ちたいと思います。

最後になりましたが、さまざまな形でご支援をしてくださっている船井情報科学振興財団の皆様にご心より感謝申し上げます。

